

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English I		
英文授業科目名	Academic Spoken English I		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	量子・物質工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1-716		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaikunihide@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>目と耳から大量の英語を吸収（多読・多聴）し、それを話す、書く、特に書くに利用できることをめざします。</p> <p>はじめは個別指導により多読・多聴してもらいますが、本や音声素材が自分に合っているかどうか及び内容について批判的に評価し、自立して本や音声素材を選び、それについて自分の意見を述べられるようになることをめざします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
ありません。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
ありません。

【教科書等】
<p>全員が一斉に読む「教科書等」はありません。5千冊を越える多読用図書、200種類を越えるCD、100種類を越えるDVDを利用します。なお、それらの紛失を補充し、新たな素材を共同購入するために半期につき一人あたり、2000円を集めます。</p> <p>なお、この授業の参考書としては 「どうして英語が使えない？ 学校英語につける薬」 酒井邦秀、ちくま学芸文庫 「快読100万語！ ペーパーバックへの道」 酒井邦秀、ちくま学芸文庫 「教室で読む英語100万語」 酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店</p>

があります。

【授業内容とその進め方】

大学入学までの英語学習は忘れてください。

ゼロから出発して、個別指導のもと、文字のない絵本やセリフのほとんどないDVDなどを使い、きわめてやさしい英語を大量に吸収してもらいます。その上で、吸収した英語を利用した人から順次たくさん話すことをめざします。

吸収

多読・多聴については三原則を利用します。すなわち

- * 一々の語にこだわらない。
 - * わからないところは無視する。
 - * 自分に合わなかったらどんどん投げ出す。
- を忠実に実行してもらいます。

話す

はじめは日本語で個別指導をしますが、前後期と続けて履修することを前提として、家で多読・多聴が習慣になった人から順次に英語で個別指導をしていきます。個別指導に対するみなさんの返答は最初のうちは英語でも日本語でもどちらでもよいでしょう。徐々に英語にしていってください。1年間の終わりに全員が英語で受け答えするようになればよいとします。なお、6月以降は家で読み・聞く習慣のできた人から順に英語で本のまとめや感想をいってもらいます。一人一人の進度によって徐々に長さや構成を考えたまとめと感想とその根拠が口頭発表できることをめざします。

その際、「多読のおしゃべり三原則」に従ってもらいます。

- * はじめは日本語まじりがかまわない。
 - * 発音にはこだわらない。
- (別途、多聴やシャドーイングで英語らしい音が出るように指導します)
- * 正しいかどうかではなく、伝わるかどうかを基準にする。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席と試験で成績を出します。

出席は3分の2以上。試験は酒井と一人ずつ、数分で本を語り合ってもらいます。少なくともintermittent speaker すなわち英語で表現できるところは英語で、表現できないところは日本語で言えることが必要です。

【オフィスアワー：授業相談】

課題の本やCDが終わったら研究室前の本棚に本を取り替えに来てください。
その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

水曜日の午後から6限の終わりまでがいちばんつかまりやすいはずです。

電気通信大学 平成20年度シラバス

そのほかの時間は会議、授業の準備などで研究室にいないことがあります。
事前に連絡をください。

【学生へのメッセージ】

この授業を取れるとしたら、非常に幸運なことです。全国の大学で、酒井研究室ほどやさしい英語の本やCDがたくさんあるところはありません。それを利用して、ゼロから英語を獲得し直すために、入学までの英語の勉強は忘れてください。

辞書と文法に頼らない読み方、聴き方に慣れる必要があります。

ただし、多読・多聴はこれまでの英語学習とはまったく違うので、
頭を切り換えなければなりません。そのことを覚悟してください。

その覚悟ができれば、いままでのどんなに英語が不得意でも（もちろん得意でも）

楽しく大量に英語を吸収できます。

【その他】

授業以外に、家で読み、聞くことを奨励します。授業時間だけの英文の吸収ではほとんど意味をなしません。はじめはわたしが助言しながら家で読む本、聞く素材を選びますが、多聴多読三原則により、次第に自分一人で選べるようになってください。